

かわさきコロナ情報(動画特設ページ)

#10 令和2年5月4日 ~ワクチン・治療薬の開発・展望、ゴールデンウィーク中の行動について~

市長：関心あるテーマだと思いますけれどもどう御覧になっていきますか。

岡部所長：ワクチンは今 1000 件ぐらい候補が出てきているんですね。ただその中で実際に評価できるのは 10 種類とか 20 種類に絞られてくるんですけども、実験的にというか研究レベルでこれがいい候補ですというのは、もうすでにでき上がっているんですね。アメリカその他各国でも一部治験をやっているんですが、ワクチンは開発をして理論上はできた。これは割とすぐにできるんですけども、でもそれを動物にやってみて、効果もある安全性もある。そうすると今度は少数の人にやってみて、効果がある、副作用がある。それで健康な人にばあっとやるようになるには、慎重にならざるを得ないので、今日明日すぐできるというわけにはいかないの、1年とか2年とかっていう単位が必要になると思います。

市長：そうするとやはり、今ある薬、アビガンだとかって話もありますけど。そういった薬はだんだん種類が増えてるような感じはするんですけど。

岡部所長：それは、ひとつはもちろん、新型コロナなので、出てきてまだ数か月しか経ってないので、それに対する薬は開発にすごく時間がかかるんですね。もちろんワクチンよりは短いと思うんですけども。しかし、同じようなウイルスで既存の薬を使うと、その効果があるんじゃないかということで効果がずいぶん出てきています。アビガンというのはもともとはインフルエンザで開発された薬ですし、エイズに使われた薬ですとか、エボラに使われた薬をやってみようとかということで。ただ、慎重に使って、その効果と安全性は当然見ながらやるわけですけども、一部は承認をしたりですね。まちのくすり屋さんで買ってきて飲んでみるかってものではなくて、やはりそれだけきちんとした研究・調査をやりながら効果も確認できるという、限定されたところで。それが増えてくれば広く使える。でも、広く使うにしてもやっぱり市販の薬と違うので、慎重な投与が必要だと思いますけれど、それで数が増えてきて、そうこうしてるうちに多分新しい薬もそこに乗っかってくるということでは、科学の進歩が急速に進みつつあるということですね。

市長：ワクチンの開発も新薬の開発も少し時間がかかるという意味では、やはり私たちの行動をしっかりと変容させて、ある意味、新型コロナをどうやって抑えながら生きていくかという術をやっぱり考えていかなきゃいけないということですよ。

岡部所長：多分このウイルスはSARSコロナウイルスのようにパッと消えてしまうようなことはなさそうで、我々が付き合わなくちゃいけない。ただ、今と同じような状態が2、3か月後に同じようになるということではなくて、それこそ新しい検査法、診断法ですとか、それから既存の薬でも使えるものが広く出てくるとか、必ず違いが出てきます。そうすると迷惑の度合いも今よりもだいぶ緩められるとか、気をつけなければならないところはここだということも出てくると思いますから。ただ、この連休というところで言いますと、今のところで我慢をしていただいて、これ以上増やさないようにということが大切だと思います。

市長：そうですね、このゴールデンウィークはだいぶ暖かいようですし、開放的な気分にならずに過ごしていただきたいなと思うんですけど。Stay Homeという言葉が、家の中に閉じこもるっていうイメージが強く出ていて、外に出たらいけないんじゃないかなという解釈をされている方もいるんですが、その辺りの正しい伝え方をしないといけないかなと思っているんですが、少しその辺りをコメントしていただいてもいいですか。難しいところだと思うんですけど。

岡部所長：Stay Homeはインフルエンザのパンデミックの時も使われていたんですけども、軽い場合には、病気の方は家で様子を見てほしい。それから、人にうつさないため、うつらないためには、あまり外に出ていないで家の中にいてください、仕事もできるだけ在宅で、という意味があるんですけども、家に閉じこもってくださいね、という意味ではないんですね。連休中に例えば、外にみんなで繰り出すのは良くないけれども、気持ちは開放的になってもいいと思うんですね。それから、少人数で例えば家族で、空いている公園を探してみるとか、多摩川の河原も混んでるところもあるんですけど、よく見ると空いてるところもいっぱいあるので、そういう所に行って少し過ごしていただくとか、それこそジョギングもいいですし、こもりっきりになるというのは良くないので。Stay Homeの意味はこもってくださいって意味ではないので、そこは上手に使っていただいて。ただ、やっぱりそういう人たちがいっぺんに集まったりですね、狭いところに集まっておしゃべりをずっとしているというのは、やっぱりリスクが高まるので、一つだけ離ればいいということではないんですけども、そういうリスクを少しずつ離して過ごしていただく。その過ごし方を上手に考えていただければありがたいですね。

市長：そうですね。いわゆる3密は避けるということから基本的に変っていないということですよ。ですから、なんとなくテレビとか報道とか見ていると、だんだん厳しくなっ

てきたなというイメージがするんですが、先程お見せしたように、市民のみなさんからの声も、あそこに人がいるとかいうようなことになっているんですが、あくまでも密を避けていただく、決して家の中でずっととじこもっておいてくださいということではないということですよ。ですから、本当に中に閉じこもり過ぎると病気になってしまうこともあるので、精神的に非常に厳しいと思いますので、まさに密を避けていただいて外を散歩するというようなことをしていただくということですよ。開いていないところが結構多いので、商業施設に行くこともあまりないと思いますが、そういった行動はしっかり注意していただいて、行動を変えていただくということですよ。

岡部所長：そうですね。

市長：わかりました、ありがとうございます。お話を伺っている中で、国全体としても、あるいは川崎市としても少し良い兆しはあるけども、しかしここが気を緩ませてはいけないポイントだということですよ。

岡部所長：いい兆しを作っていたいただいたのは、おそらく皆さんの我慢の集まりだと思うんですね。でもそこで「良かった」となってしまうと、またもう一回増えてしまうといけないので、残念ですけど、ここはあまり開放しすぎないように、しかし、閉じこもり過ぎないようにしていただければと思いますね。

市長：本当に皆さんの御協力のおかげで、行動変容していただいたことの成果が一定程度表れてきているということは間違いないので、そのことを今回、さらに続けていただくことによって押さえ込んでいくと。そういうことにみんなの力を結集して頑張っていきたいと思っています。一人一人の意識とともに、地域全体で取り組んでいくということが大事だと思います。本当に医療従事者の皆さんもそうですし、健康安全研究所で検体を検査してくれている人たちもそうですし、エッセンシャル・ワーカーと言われている社会機能を維持してくれている全ての人たちが、何とか頑張ろうっていう意識を持っていただいていると思います。本当に心から感謝をしたいと思いますし、是非みんなの力で乗り越えていきたいと思っています。今日は岡部所長に専門的な見地からお話を伺いました。ありがとうございました。